

事業所における自己評価総括表

公表

○事業所名	かつしか風の子クラブ			
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日 ~ 令和7年12月25日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数)	20名
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日 ~ 令和7年12月25日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	指導員の勤務継続年数が長く、こどもたちへの支援にあたって最も大切とされる指導員のチームワークが非常に良いと思います。一人ひとりの職員が経験豊富であり意欲的にこどもたちの活動を支援しています。	こども一人ひとりの課題について話し合いをもち、共通認識の上で支援に取り組んでいます。こどもたちの成長と共に喜び、また小さな変化についても話し合える雰囲気をつくっています。	こども一人ひとりのニーズや課題を全職員で共有する話し合いの場を今後さらに増やしていくことが必要であると考えます。

2	<p>保護者を中心に立ち上げたNPO法人の運営であるため、保護者同士または保護者と指導員とが協力してこどもたちのために様々な企画を行うことができています。こどもたちの成長を共に喜んだり、悩みや課題について一緒に考える雰囲気が保護者間にもあり、子育ての上の仲間づくりを目指すことができています。</p>	<p>バスハイクやクリスマスコンサートなど、家族で参加できる行事を行い、交流の場をつくる工夫をしています。またこどもたちが現在または将来利用できる福祉サービス事業所（短期入所施設、通所施設、グループホームなど）の見学会を行うなど、学びの場を通しての保護者間の交流も行っています。</p>	<p>悩みを一人で抱え込まず、指導員や共に子育てをする仲間たちにいつでも相談できる雰囲気づくりをさらに進めていくことが大切であると考えています。そのために学びや交流の場をこれからも充実させていきたいと思います。</p>
3	<p>言葉の表出がないこどもも多く、コミュニケーションの手段を工夫しながら本人が自ら意思を示すことができるよう支援しています。「意思決定支援」が現在も、そして将来的にも重要な位置づけとなるよう、努力しています。</p>	<p>活動の中で、こどもからの意思の発信を尊重したり、選択の機会を増やす取り組みを行っています。おやつを選ぶ、買い物学習で購入したいものを選ぶ、遊びを選ぶ、工作の際の材料を選ぶ、など、言葉の表出が難しいこどもの場合も意思を汲み取る関わりを大切にしています。</p>	<p>「意思決定支援」における意思の表出が、児童期もそして将来にわたっても本人の中に定着できるよう、職員全員で研修の際に振り返り、子どもに合わせた取り組みを考えていきたいと考えています。</p>

	<p>事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること</p>	<p>事業所として考えている課題の要因等</p>	<p>改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等</p>
1	<p>地域のこどもたちとの交流が出来る機会が不十分であると思われます。特別支援学校に在籍しているこどもたちが通所しているため、インクルーシブという視点から計画的、継続的な取り組みが必要ではないかと考えています。</p>	<p>児童館や学童保育クラブなどとの交流については企画の段階から丁寧に取り組む必要があり、なかなか進まないという課題があります。</p>	<p>同じ地域に育つこどもたち同士として積極的に交流に取り組む必要を感じています。当事業所と併用しているこどもが在籍する学童保育クラブとの連携から取り組みを始めていきたいと考えています。</p> <p>また来年度は地域の図書館の利用により、地域のこどもたちとの交流などに積極的に取り組んでいく計画です。</p>
2	<p>コミュニケーションに課題のあるこどもも少なくないため指導員の配置が多いことでプラスの面は非常に多いのですが、こどもたち同士の関わり合いという点から考えると若干マイナスに作用することもあると感じています。</p>	<p>こどもと指導員がマンツーマンで関わりこどもの気持ちに即した支援ができるため、逆にこどもたち同士での関わりが少なくなってしまっている側面も感じられます。</p>	<p>指導員を介在しながらこども同士の関係が構築されていく活動の工夫を考えしていく必要があります。大きな作品に全員で取り組む製作活動、チームで競う風船バレーなど、仲間を意識できる活動を増やしていきたいと思います。</p>

3	<p>活動の中に療育的な面を上手く取り入れていく必要があると感じています。風の子は家庭や学校とは違う第三の心地よい居場所としての存在であり、一方では将来のために自立への力を伸ばせるよう支援する場でもあります。両面を意識しながら支援していく必要があり、一層充実した活動が求められていると感じます。</p>	<p>保護者や子どもの意向を尊重した上で取り組む必要があり、さらに学校や他の事業所との連携も不可欠であるため、課題によっては難しいこともあると思われます。</p>	<p>一人ひとりの子どもの課題について、子どもの意欲を高めながらどのような方法で取り組むことができるのかを、指導員の研修や検討の場を増やしていく必要があると考えます。</p>
---	---	---	---